

2025年度 NCV新潟センター 放送番組審議会

議事録

日時：2026年2月13日（金）16時30分～17時30分

会場：ホテル イタリア軒 5F 中宴会場トリノ

合評番組：「小学生スピード甲子園～未来のエースが全力投球～」(2026年1月放送)

番組審議委員（順不同）

委員長 坂本 信 様（新潟大学 理事 副学長）

委員 薄田 真司 様（弁護士法人一新総合法律事務所 弁護士）

委員 阿部 雅幸 様（新潟地所株式会社 代表取締役）

委員 長谷川 晴彦 様（フリーアナウンサー）

委員 五十嵐 紀子 様（新潟市政策企画部広報課 課長）

◆各委員から合評番組についてのご意見

坂本委員長

- 地域密着感があって良かった。
- ひたすらピッチングが続くので、やや単調に感じた。

薄田委員

- 子どもたちの真剣な様子が伝わり、元気をもたらえた。
- 事前取材があったことで、番組に厚みがあった。
- コンテストが始まる前にマック鈴木のごさを見せたのが良かった。
- コンテストの説明がもっとあるとわかりやすかった。
（例）何のためのコンテスト？ マック鈴木と新潟の関わり。
- 小学生の各学年の平均速度を知りたかった。
エビデンスを示しにくいので、マック鈴木に教えてもらっても良かったかもしれない
- 保護者のインタビューがあっても良かった。

阿部委員

- 番組名がキャッチー
- 室内が暗く、同じ場所で展開するため動きが少なく感じた。
- マック鈴木の指導がわかりやすかった。
- 単調に感じたため、もっと抑揚が欲しい。

長谷川委員

- 現場の動きが少ない分、テロップやBGMで盛り上げようとする工夫を感じた。
しかし、BGMのレベルが低かった印象。
- マック鈴木の指導がわかりやすかった。
- 事前取材があることで、番組全体に緩急があった。
- 「1人2球投げてアドバイスをもらう」というルールをあえて詳しく触れなかったのは、正解だったと思う。もし説明していたら、1人2球投げる姿を見せることになり、より間延び感が生まれたかもしれない。

五十嵐委員

- 出場選手を全員取り上げていたのは、地域密着感があった。
- 選手がコンテストを楽しみつつ、頑張っている様子が伝わった。
- ピッチングが続くのが単調に感じた。
- 現場が雑然としていて、内容に集中できない場面があった。
(例) スタッフの荷物がずっと映っている。後ろで進行係が打ち合わせをしている。
- 選手一人ひとりのスピードをテロップで出していたのは、見方によってはかわいそう。

◆総評

- ・地域密着感のある番組だった。
- ・子どもたちの真剣な様子が伝わり、元気をもらえた。
- ・すべての選手を取り上げていたのは良かった。
- ・事前取材があったことで番組に厚みが出ていた。
- ・ずっと同じ場所で、現場に動きがなく、ひたすらピッチングが続くのが単調な印象。
- ・現場が雑然としていた。室内だから暗く感じた。
- ・小学生の平均速度がわかれば、優勝選手のすごさがもっと伝わったかもしれない。

◆提案として

- CM や新潟市の PR などを入れれば、メリハリが生まれるのでは？
- 保護者のインタビューがあっても良い。
- 抑揚を付けるためにも、SE のバリエーションがあっても良い。
（例）優勝が決まった時に「ドカーン」
- コンテストの開催意義やマック鈴木をゲストに迎えた理由を説明する。
- 番組 MC のオダニさんに活躍の場があっても良いのでは？
（例）バッターボックスに立って、選手の球を打ってみる

以上